

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370300677		
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	グループホーム 愛生 4階		
所在地	熊本県人吉市二日町22		
自己評価作成日	平成23年2月16日	評価結果市町村受理日	平成23年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成23年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人吉中心部の病院建物4・5階を利用し造られたグループホームで、日本三大急流のひとつ球磨川や市内を一望できる。人吉は四季折々見物するところも多く、季節感を肌で感じる外出ができる。又、施設内では学習療法を取り入れ認知症の進行予防に努めている。母体病院や系列施設等直結している為、健康診断をはじめ、訪問看護ステーションとの連携にて常時利用者の体調管理を行い異常、急変、緊急時等速やかに対応を行っている。又そのことで家族にも安心していただけるように勤めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小京都と謳われる歴史ある町並みを4、5階のホームより一望し見慣れた景色の中で入居者は穏やかな日々を過ごしている。昨年、管理者の異動や職員の配置転換により新体制となり母体との医療連携を引き続き支援しながら個々の入居者へ適切な医療を提供している。又、学習療法の継続は認知症進行に一定の歯止めをかけ入居者も楽しみに参加している。昨年より高齢化に伴い行事や外出支援での見直しを図り入居者へ無理のない対応を検討している。管理者は日々入居者の現状把握に努めながら、新、旧の職員が一体となってチームケアに取り組み、細やかな気づきや疑問を自由に発言できる体制作りを確立したいとして職員とのコミュニケーションを心がけている。新体制の元、グループホーム愛生の更なる飛躍が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日に理念を復唱し、確認しつつ現場に生かせるように動めている。	基本理念3項目を事務所内に掲示し、職員は毎週の申し送りや、合同での話し合いの席で復唱し言葉のもつ意味を確認している。二月の定例会議では職員が年目標について意見を出し合い、新年度からの新たな介護目標として取り組みたいと現在集計し内容の検討を行っている。	管理者は理念のもつ一つひとつの言葉の重みを全職員が肌で感じながら支援に当たることを目標としており、日々のケアの中で気付きや疑問を素直に口に出来る環境や、体制作りを確立したいとしている。入職後、日の浅い職員もいる事から理念の更なる浸透に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社協主催のボランティアスクールなどの受け入れ。幼稚園や小学校などの行事等の参加。また地域との行事等にも参加している。	中、高生のボランティアの受け入れや案内を受け近隣の幼稚園の発表会、小学校の運動会、地域の祭り、敬老会等に出かけている。高齢化が進む中、入居者の状態を見ながら毎月の神社参拝等の定期行事を中止し年頭の初詣でに出かけている。入居者優先の支援を心がけ、遠方の外出にこだわらず日常の散歩を通じ地域住民と会話する機会や自然に触れる時間を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今は、まだ行っていない。まず、職員が知識を深めていき、そして家族(家庭介護者教室等)や地域の人に勉強会など行ってきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状報告等を行い、それに対し意見等があれば受け入れ、今後の取り組みに生かしている。	包括センターや地元代表者参加による定期的な会議が開催されている。ホームの現状報告、活動状況、参加者の意見交換等が行われている。外部評価についても紹介を行っている。家族への参加を呼びかけてはいるが、現在の所参加は得られていない。	家族への議事録開示や開催日時の検討により会議への関心や参加につなげ、事前の議題提示や参加者の専門分野を生かしたミニ講話等の新たな取り組みにより会議の充実を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修会への参加や介護認定申請時に情報の提供を行っている。	市主催の研究会への参加や申請時に役所を訪れ相談事にも気軽に応じてもらえる関係である。市よりインフルエンザについての情報資料を直接持参してもらおう等の協力も得られている。二月の実施指導を受け改善点を記録し今後の課題として全員で取り組みたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等に参加して各々が知識を深め、身体拘束をしないような取り組みを行っている。	職員は内部研修により拘束について再認識し参加出来なかった職員も資料により共有している。不穏になられる入居者に寄り添い言葉をかける職員の姿が確認された。身体的な拘束はもとよりスピーチロックによる入居者への精神的拘束に十分配慮しなければならないとして対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様研修会などで理解を深め、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者が居られることにより、制度等について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いろいろな意見等は随時受け付けているが、なかなか家族や利用者からの意見等は聞かれない。今回の外部評価によるアンケート等では家族等の正直な意見が聞かれるのを楽しみにしている。またそれを踏まえ今後に生かしていきたい。	面会時を家族との対話の機会として、職員は思いや意向の把握に努めている。職員の異動や新規採用に伴い家族からあがった不安の声に管理者は合同会議の中で職員が共通認識をもって取り組み誰もが対応出来るように徹底したいとしている。	相談、苦情の対応窓口として重要事項にホーム担当者を明記しているが、合わせて公的機関の掲載が必須と思われる。家族から寄せられた、相談や意見、苦情等は記録に残し職員間で共有し対応する事が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に問いかね等して意見を聞く体制はとっている。	管理者は日常的に職員の意見を聞くように努め、先づは職員が話しやすい雰囲気作りを心がけている。職員からの意見、要望はあまり上がらないもののケアに関する事については様々な提案が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会や確保は行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や協議会等を通してサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	問題行動や不穏があるときはもちろんのことスタッフが付き添い、それ以外でも利用者の中に入り世間話の中で何気なく困っていることや要望とかを聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際にはこうしてほしい等の話は聞かない。預かるだけで安心されるのかもしれないし、預けた後の家族の訪問も無いように感じる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その利用者に対して一番良いサービス提供ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることに関しては、協力していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時など状況を報告し、相談等をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人にデイサロン等で会われる為に毎月1回行われるデイサロンに参加していただいている。	社協主催のデイサロンに入居者は職員と共に参加し、顔馴染みの方々との交流を楽しみにされている。日々の散歩を通じ地域の人々と会話し、見慣れた景色を見る事で精神の安定を図っている。理美容の支援にホーム近くの美容室を利用したり、家族が来られカットをされる等の協力が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置など考慮し、トラブルの無いように勤めているが、口論等になった場合にはすぐに間に入り、関係を修復している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者全員との関係性は保たれていないが一部(ボランティア等で来ていただいている家族等)では、関係が続いている。また施設行事等には、案内をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本来であるならばそういう取り組みが必要であるけれども、実際には現状の対応に一杯で深く検討ができていない。	職員は入居者とゆっくりと接し、会話の中から思いを引き出すよう心がけ、表現困難な入居者へは日頃の様子や仕草から汲み取っている。帰宅願望の強い入居者へ家族の協力を得て電話による支援を実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現状では、できていない。ただ現在1~2人を取り上げ、問題行動等を検討し、取り組みを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方や心身状態等は生活の中でスタッフがそれぞれつかんでいると思うが、それを話し合う機会が少ない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は作成しているが、意見やアイデアが反映されているのかは、疑問がのこる。今後は、踏み込んだ現状に即した介護計画を作成するように取り組みたい。	現在プラン作成の為の勉強会を実施している。定期的な見直しや随時の見直しにより現状に即した内容となっているが、管理者は形式だけではなく、入居者の思いに深く踏み込んだプラン作成を全職員で取り組む意向である。	管理者は会議の中で一人の入居者に対する最良の支援方法を全員で考える機会をもち、すべての入居者に広げて行きたいとしている。入居年数が長期にわたる方もいる事から入居者本人の思いや、家族、関係者から広く意見を聞き再アセスメントをとる事等も検討課題と思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録も行っているし、情報の共有も行っているが、内容には十分納得はしていない。今後時間をしっかりつくり、検討し、計画を立てて、実践し状態を見ていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全然取り組んでいないとは思わないが、柔軟な支援、サービスの多機能化を行うには、もう少し時間がかかると思う。スタッフのスキルアップが必要だと思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しく生活していただけるような努力はしているが、これももう少し踏み込んで考える必要があると思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状が発生した場合、家族に相談をし、受診を行っている。	利用開始時にこれまでのかかりつけ医を支援する事を伝えている。現在は全員が法人医療機関をかかりつけ医として、ホームで受診を支援しているが状況に応じ家族にも同行を依頼している。訪問看護や主治医による健康管理は家族の安心にも繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員はいない為、訪問看護との連携をしっかりととり、受診の際には訪問看護より医師等に状況説明をしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月1回全体会議(管理運営委員会)の出席することにより病院等の状況の把握や入院された場合には時間の空いたときに訪問等をして病状の把握などに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者・家族とは見取り指針に基づき同意を取って終末期の対応を行っている。	終末期の看取り指針に基づき、本人・家族の意向を確認しながら対応を行うこととしているが、現在ホームで出来る支援について体制を検討中である。	ホームとしての方針を再検討したいとしており、職員間で方針を共有し、家族への説明や、本人・家族の思いを確認する機会を持つことが必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署等で行われる救急救命法の講習や院内研修等でも研修を行い、事故発生等に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練では年2回の訓練を行っているが地震や水害等の災害時にも対応できるように今後は取り組んでいきたい。	災害対策マニュアルを作成し、建物全体の併設施設合同の火災訓練を実施している。地域消防団にも協力を要請しており、今後は火災以外の災害対策や備蓄についても検討し準備したいとしている。	建物の三・四階にある事からも、今後も地域との協力体制や、依頼している消防団にホーム内を確認してもらうなど災害対策への取組みに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎週月曜日に理念を復唱し、確認しつつ現場に生かせるように勤めている。	呼称は基本的に苗字としているが、状況によっては名前と呼ぶなどその時に応じ対応している。週の始まりに理念を唱和し、入居者へ尊敬やプライバシーに配慮した支援に努める事を確認し業務にあたっている。	今後も入居者への関わりについて、職員間で事例を通じた研修会や話し合いなど、共有に繋がる機会を持つ事で、入居者の一人ひとりを尊重した支援に繋がって行くことが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様に常に聞く姿勢を持って対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけその人らしい暮らしができるように行っているが、現在施設側の都合で動くことの方が多いように思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には寝る時はパジャマで朝は着替えをしていただいている。髪の毛が伸びてきたら美容室等へ出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は現在できていない。(できない。)それでも出来る事を探して行っている。(例えばもやしの芽取り)下膳等	入居者は食事の準備等困難な状況になってきているが、食材購入や野菜切り、茶碗洗いなど、できる事をできる方が職員と一緒にやっている。キザミやお粥など個々の嚥下状態や体調に応じ個別支援し、食事を目で確かめ匂いを感じられる様、嚥下困難な方へ一品ごとのミキサーやキザミでの対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1400kcalを摂取していただけるように献立を立てて行っている。刻みや、おかゆ、分量等その人の状態等を見ながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできる人はご自分でしていただき、できない人へは援助を行い口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見ながら、時間を決めて誘導し、パットができるだけ濡れないように勤めている。	全員の排泄チェック表を記入し、時間ごとの誘導や、声かけにより日中はトイレでの排泄を支援している。夜間も自立の方やポータブル使用など個々に応じ支援している。ポータブルは洗浄やベランダでの天日干しを行い、清潔に保ち気持ちよい排泄支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分は出来るだけ取っていただけるようにし、運動も声かけをして行っている。食事でも、食物繊維を取れるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日はあらかじめ決めてあるが、その時の状態をみて変更は行っている。	毎日入浴の準備を行い、本人の状態を確認しながら間隔が空かないように、基本的に週三回の入浴を支援している。拒否の方へは職員二名でタイミング良く誘うなどその方に応じた工夫を行っている。現在、建物の二階にある併設デイサービスの大浴室を週末に利用したり、季節風呂(菖蒲・柚子)を準備するなど工夫をこらし入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安があり眠れない時などは相談に応じ、安心して眠れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は食事が終わったのを見計らい本人に渡し、完全に飲まれたことを確認している。状態変化については常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天候の良い日などバスハイク等へ出かけ、外の空気を肌で感じていただいたりして、気分転換をしたり、室内では歌を歌うことにより気持ちの発散を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠出は、現在の利用者様の年齢を考えるとかえって負担がかかるので近場で頻会にいくことを心がけている。	今年度、管理者は入居者の年齢に配慮し無理なく楽しめる日常的な外出に努めたいとし、近隣の散歩や、酔わない距離で楽しめるドライブ等を行っている。家族による法事の為の帰省や外出も行われており、今後も個別支援を含め、家族や地域と協力しながら入居者の負担にならない支援を計画したいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが数人には、本人様が買いたいもの(クリームや散髪等)があればお金を渡し購入をいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを見ない時はいつも唱歌などを流して聴いていただいている。またカレンダーを掲示し、今日は何日で何があった日とかを話している。	入居者の集うリビングダイニングには、一人ひとりの紹介色紙の掲示がされている。通路や暖房機を囲むように置かれたソファの設置や、段あがりの畳の間など寛げる空間である。台所や浴室、トイレなど共用空間は整頓や掃除を心がけ気持ちよく過ごせる空間である。	共用空間に流される音楽を、食事中は消して入居者と職員が会話を楽しむ等、音量や時間帯などに配慮する必要があると思われる。検討いただきたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在はストーブの周りにソファを置いているが、そこに自然と集まってこられ思い思いの話をされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具を持ってきていただいている。また写真等を飾られる方も居られます。	家族の協力により家具や収納ケース、家族の写真などが持ち込まれ、思いおもいの居室を職員も一緒に支援している。又、ADLや車イスの使用状態に応じ職員は居室内の物品の位置にも配慮し整頓している。	今後も居室内の掲示物など定期的な確認を行い、入居者の居心地良い居室支援に繋げて頂きたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、手すりをつけて歩きやすいようにしている。又トイレや歯磨き等は、表示をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370300677		
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	グループホーム 愛生 5階		
所在地	熊本県人吉市二日町22		
自己評価作成日	平成23年2月16日	評価結果市町村受理日	平成23年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号
訪問調査日	平成23年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人吉中心部の病院建物4・5階を利用し造られたグループホームで、日本三大急流のひとつ球磨川や市内を一望できる。人吉は四季折々見物するところも多く、季節感を肌で感じる外出ができる。又、施設内では学習療法を取り入れ認知症の進行予防に努めている。母体病院や系列施設等直結している為、健康診断をはじめ、訪問看護ステーションとの連携にて常時利用者の体調管理を行い異常、急変、緊急時等速やかに対応を行っている。又そのことで家族にも安心していただけるように勤めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日に理念を復唱し、確認しつつ現場に生かせるように勤めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社協主催のボランティアスクールなどの受け入れ。。幼稚園や小学校などの行事等の参加。また地域との行事等にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今は、まだ行っていない。まず、職員が知識を深めていき、そして家族(家庭介護者教室等)や地域の人に勉強会など行ってきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状報告等を行い、それに対し意見等があれば受け入れ、今後の取り組みに生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修会への参加や介護認定申請時に情報の提供を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等に参加して各々が知識を深め、身体拘束をしないような取り組みを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様研修会などで理解を深め、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者が居られることにより、制度等について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いろいろな意見等は随時受け付けているが、なかなか家族や利用者からの意見等は聞かれない。今回の外部評価によるアンケート等では家族等の正直な意見が聞かれるのを楽しみにしている。またそれを踏まえ今後に生かしていきたい。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に問いかけ等して意見を聞く体制はとっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会や確保は行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や協議会等を通してサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	問題行動や不穏があるときはもちろんのことスタッフが付き添い、それ以外でも利用者の中に入り世間話の中で何気なく困っていることや要望とかを聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実際にはこうしてほしい等の話は聞かない。預かるだけで安心されるのかもしれないし、預けた後の家族の訪問も無いように感じる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その利用者に対して一番良いサービス提供ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることに関しては、協力していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時など状況を報告し、相談等をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人にデイサロン等で会われる為に毎月1回行われるデイサロンに参加していただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置など考慮し、トラブルの無いように勤めているが、口論等になった場合にはすぐに間に入り、関係を修復している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者全員との関係性は保たれていないが一部(ボランティア等で来ていただいている家族等)では、関係が続いている。また施設行事等には、案内をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本来であるならばそういう取り組みが必要であるけれども、実際には現状の対応に一杯で深く検討ができていない。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現状では、できていない。ただ現在1~2人を取り上げ、問題行動等を検討し、取り組みを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方や心身状態等は生活の中でスタッフがそれぞれつかんでいると思うが、それを話し合う機会が少ない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は作成しているが、意見やアイデアが反映されているのかは、疑問がのこる。今後は、踏み込んだ現状に即した介護計画を作成するように取り組みたい。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録も行っているし、情報の共有も行っているが、内容には十分納得はしていない。今後時間をしっかりつくり、検討し、計画を立てて、実践し状態を見ていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全然取り組んでいないとは思わないが、柔軟な支援、サービスの多機能化を行うには、もう少し時間がかかると思う。スタッフのスキルアップが必要だと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しく生活していただけるような努力はしているが、これももう少し踏み込んで考える必要があると思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状が発生した場合、家族に相談をし、受診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員はいない為、訪問看護との連携をしっかりととり、受診の際には訪問看護より医師等に状況説明をしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月1回全体会議(管理運営委員会)の出席することにより病院等の状況の把握や入院された場合には時間の空いたときに訪問等をして病状の把握などに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者・家族とは見取り指針に基づき同意を取って終末期の対応を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署等で行われる救急救命法の講習や院内研修等でも研修を行い、事故発生等に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練では年2回の訓練を行っているが地震や水害等の災害時にも対応できるように今後は取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎週月曜日に理念を復唱し、確認しつつ現場に生かせるように勤めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様に常に聞く姿勢を持って対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけその人らしい暮らしができるように行っているが、現在施設側の都合で動くことの方が多いように思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には寝る時はパジャマで朝は着替えをしていただいている。髪の毛が伸びてきたら美容室等へ出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は現在できていない。それでも出来る事を探して行っていただいている。(例えばもやしの手取り)下膳等、台拭きなど。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1400kcalを摂取していただけるように献立を立てて行っている。刻みや、おかゆ、分量等その人の状態等を見ながら対応しているが、揚げ物等が多く見られる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできる人はご自分でしていただき、できない人へは援助を行い口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレの誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分は出来るだけ取っていただけるようにし、運動も声かけをして行っている。食事でも、食物繊維を取れるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日はあらかじめ決めてあるが、その時の状態をみて変更は行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安があり眠れない時などは相談に応じ、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は食事が終わったのを見計らい本人に渡し、完全に飲まれたことを確認している。状態変化については常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天候の良い日などバスハイク等へ出かけ、外の空気を肌で感じていただいたりして、気分転換をしたり、室内では歌を歌うことにより気持ちの発散を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠出は、現在の利用者様の年齢を考えるとかえって負担がかかるので近場で頻会にくことを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが数人には、本人様が買いたいもの(クリームや散髪等)があればお金を渡し購入をいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビをよく見ておられる。又座敷には以前ご利用していただいたご家族様より生け花を月2回ほど着ていただき行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在はストーブの周りにソファを置いているが、そこに自然と集まってこられ思い思いの話をされている。又仲のよい利用者様は共有部分を中心にして、歩いておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具を持ってきていただいている。また写真等を飾られる方も居られます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、手すりをつけて歩きやすいようにしている。又トイレや歯磨き等は、表示をしている。		